

自己点検・評価報告書

点検対象：2021年4月～2022年3月

報告書作成月 2022年6月

一般財団法人日本語教育振興協会

「日本語教育機関のための自己点検・評価チェックリスト」

を参考に点検項目を作成

中央情報専門学校 日本語本科

評価基準

5：達成できている 4：概ね達成できている 3：取り組むべき課題はあるが取り組んでいる
2：できていないことが多い 1：全くできていない

1. 理念・教育目標

評価

1	理念、教育目標が社会の要請に合致していることを確認している。	5
2	理念、教育目標及び育成する人材像が、教職員及び学生に周知されている。	4

学期初めに非常勤講師を含め全体会議を行い「前学期・前年度の総括」「新学期・新年度の目標」の確認と同時に「教育理念」についても毎回確認を行っている。コロナの影響で昨年度は全員での会議はできなかったものの、教育DXを進め、情報共有ツール（Teams/Dropbox等）で資料を共有し、目指すべき学生の姿を確認の上、新学期に臨むことができた。学生へはオリエンテーションに時間をかけ周知しているが、学生管理厳格化に伴い、より一層「目標の明確化」をしていく必要がある。

2. 学校運営

評価

1	短期及び中長期の運営方針と経営目標が明確化され、教職員に周知されている。	4
2	意志決定が組織的に行われ、かつ、効率的に機能している。	4
3	予算編成が適正に行われ、執行ルールが明確である。	4
4	外部からの情報収集が効率的に行われ、かつ、共有する仕組みがある。	5
5	学生、入学志願者及び経費支弁者に対して、理解できる言語で情報提供を行っている。	5
6	授業や運営に関する学生からの相談、苦情等の担当者が特定され、適切に対処している。	5

前年評価から「6」の項目は改善できた。担任を中心に全職員で情報共有することにより同じ力で滞りなく対応ができた。（毎日職員全員で終礼実施）「報告・連絡・相談」体系はより強固になった。外部情報（研修等）は共有ツールで展開。母国語での指導体制も整い、学生からの意見にも対応できている。国籍、学生数が増えても今の対応を継続して行うことが今後の課題である。

3. 教育活動の計画

評価

1	理念・教育目標に合致したコース設定をしている。	4
2	教育目標達成に向けたカリキュラムを体系的に編成している。	4
3	国内、又は国際的に認知されている熟達度の枠組みを参考にしてレベル設定をしている。	5
4	教育目標に合致した教材を選定している。	5
5	教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られている。	5
6	教員の能力、経験等を勘案し、適切な教員配置をしている。	5

コロナの影響で学生が少なかったこともあり、学生のレベルに合わせて柔軟に対応ができた。クラス編成、授業進度、授業方法等担任がしっかりコントロールしてくれた。今後も様々な形に柔軟に対応していくとともに、今年度は非常勤講師が戻ってくることから教員研修にもっと力を入れていきたい。

4. 教育活動の実施

評価

1	授業開始までに学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	5
2	教員に対して、担当するクラスの学生の学習目的、編成試験の結果、学習歴その他指導に必要な情報を伝達している。	5
3	授業記録簿及び出席簿を備え、正確に記録している。	5
4	理解度・到達度の確認を実施期間中に行っている。	4
5	学生の自己評価を把握している。	5

人数も少なかったことから担任が密に連携を取りながら学生に寄り添い、関係は最高であった。進度、目的、学生の様子などを授業記録で共有できたことも評価したい。前年度の課題であった「理解度・達成度の提示、明確化」は自己評価シートを作成し、学生が自己評価できる仕組みを作り上げた。一方的提示ではなく、自己評価させることでの効果は非常に大きかった。今後も継続したい。

5. 成績判定と授業評価

評価

1	判定基準及び判定方法が明確に定められ、適切に行われている。	5
2	成績判定結果を的確に学生に伝えている。	5
3	判定基準及び判定方法の妥当性を定期的に検証している。	4
4	授業評価を定期的実施している。	4
5	評価態勢、評価方法及び評価基準が的確である。	5
6	学生による授業評価を定期的実施している。	5
7	授業評価の結果が教育内容や方法の改善、教員の教育能力向上等の取組みに反映されている。	5

学生管理システムはすでに構築され、それぞれが情報を更新し、担任のみならず教職員全員で共有・指導ができています。また、ICTを使った、学生による匿名での授業評価は学期ごとに行い、主任教員から各教員に対し個別でフィードバックを行い、課題の共有、改善のための取組みを行っている。人数が少なかったとはいえ過去一番の実績（外部試験合格率・進学率・出席率等）となった。今後は教員研修を充実させ、さらに授業、教育の質を上げていきたい。

6. 教育活動を担う教職員

評価

1	校長、主任教員、専任教員及び非常勤教員の職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
2	教育目標達成に必要な教員の知識、能力及び資質を明示している。	4
3	教員及び職員の研修等により教育の質及び支援力強化のための取組みをしている。	5
4	教員及び職員の評価を適切に行っている。	5

「5」で示した通り、アンケート結果は教員へ提示し、評価、課題確認を実施。昨年度は非常勤講師も含めた研修が実施できなかったため、今年度はICT授業の方法、多国籍学生に対する指導、管理方法など、教員の質を高めるために実施したい。外部研修等で得た情報の共有など、授業だけではなく、より内容の濃いものを提供する場にもしていきたい。

7. 教育成果

評価

1	入学から修了・卒業までの学習成果を記録、保管し、適切に管理している。	5
2	修了・卒業の判定を適切に行っている。	5
3	日本留学試験、日本語能力試験等の外部試験の結果を把握している。	5
4	卒業または修了生の進路を把握している。	5
5	卒業生および修了生の状況を把握するための取組みを行い、進学先、就職先等での状況や社会的評価を把握している。	5

学生情報は過去も含めデータ、書類はしっかりと管理されている。新たな情報共有ツールにより外部試験の結果共有、進路把握も容易になった。卒業後の学生管理がより重要になることを全員が理解し適正校維持のため全員分把握できた。さらに進学先・就職先の状況は卒業生や先方との連携を密にし、スムーズに把握できる体系の構築は必要である。教員間でいつでも過去データを閲覧できる体制整備も完了。情報の「見える化」は常に更新していく必要がある。

8. 学生支援

評価

1	学生支援計画を策定し、支援態勢を整備している。	5
2	生活指導責任者が特定され、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
3	日本社会を理解し、適応するための取組みを行っている。	5
4	留学生活に関するオリエンテーションを入学直後に実施し、また、在籍者全員を対象に定期的に行っている。	5
5	住居支援を行っている。	5
6	アルバイトに関する指導及び支援を行っている。	5
7	健康、衛生面について指導する態勢を整えている。	4
8	危機管理体制を整備している。	5

勉学に集中できるように、生活指導責任者、担任を中心に教職員全員で学生を支援する体制はできている。問題を個人のものにせず、全員の問題として対応ができています。日本でのルールも厳しく指導を行い、教育目標でもある「卒業と同時に社会で活躍できる人材」となるよう指導を心掛けています。学生と密に連携を取ることで相談しやすい環境が作れているので、学生の変化に素早く気づけている。

避難訓練、健康診断も定期的実施。

学生管理をより厳しくした1年であったが、教員だけでなく、学生も含めた連絡系統、指示系統は早めに明確化できたため混乱なく進められた。コロナ対策では毎日検温を実施し、体調不良者へは早めに登校停止にするなど先手の対応はできた。アルバイトに関しては学生に毎月通帳を持参させ担任による管理、指導を行い、進学、ビザ問題等で不利になる学生が出なかった点は継続していきたい。

新入生に対する入国時のフォロー、寮の手配なども体系整備ができ、問題が起きた際もスムーズな対応ができていますのでこちらも継続していく。

オリエンテーションの内容については日々変わる情勢を鑑み、毎年見直していく。

9. 進路に関する支援

評価

1	進路指導担当者を特定している。	5
2	学生の希望する進路を把握している。	5
3	進学、就職等の進路に関する最新の資料が備えられ、学生が閲覧できる状態にある。	5
4	入学時からの一貫した進路指導を行っている。	5

進路指導は入国後すぐのオリエンテーションから始め、2年間の中でどのような準備が必要か、いつから準備が必要かなどは周知できている。人数が少ないこともあって例年になく2年生からスムーズに進学指導に入れた。学生と何度も面談を行い、学校・専攻を決め担任と一緒にスケジュールを立て、それに準じた動きができていた。毎年「年内全員合格」を目標としているが、昨年度は初めて年内100%を達成した。課題であった進学に関する資料の閲覧に関しては、各教室に資料等を置くとともに外部説明会、指定校推薦校などの最新情報の提供は軌道に乗せることができた。

10. 入国・在留に関する指導及び支援

評価

1	入管事務担当者を特定し、その職務内容及び責任と権限を明確に定めている。	5
2	担当者は、研修受講等により最新かつ適切な情報取得を継続的に行っている。	4
3	入国管理局により認められた申請等取次者を配置している。	5
4	入管法上の留意点について学生への伝達、指導等を定期的に行っている。	5
5	在留に関する学生の最新情報を正確に把握している。	4
6	在留上、問題のある学生への個別指導を行っている。	4
7	不法残留者、資格外活動違反、犯罪関与者等を発生させないための取組みを継続的に行っている。	4

学生へ常に最新情報を提供するよう心掛け、ルールの大切さなどは生活指導責任者をはじめ担任からも授業内外で指導。遅刻・欠席者への連絡は漏れなく行き、登校時に即指導。情報共有、保存しながら学生の傾向を掴むとともに学生の変化に早めに気づけている。学生指導に関しては今後もさらに細かい対策が必要な項目なので学生が増えても同じレベルを維持したい。申請等取次者は全員保持。

11. 教育環境

評価

1	教室内は、十分な照度があり、換気がなされているとともに、語学教育を行うのに必要な遮音性が確保されている。	4
2	視聴覚教材やITを利用した授業が可能な設備や教育用機器を整備している。	5
3	教員及び職員の執務に必要なスペースを確保している。	5
4	法令上必要な設備等を備えている。	5

設備は充実しており、学生にも様々な方法での授業が提供できている。ICTを利用した授業も可能であり、学生からの評価も高く、学習成果も出ている。コロナ対策もあり密になりそうな環境は教員室、教室でも排除できた。この状態の維持は必須。

12. 入学者の募集と選考

評価

1	教育内容、教育成果を含む最新、かつ、正確な学校情報、求める人物像、および応募資格と条件が入学希望者の理解できる言語で開示されている。	5
2	入学選考基準及び方法が明確化され、適切な体制で入学選考を行っている。	4
3	学生情報を正確に把握し、提出された根拠資料等により確認を行っている。不法残留者を多く発生させている国からの志願者については、学校関係者（職員等）が面接などの調査を行うよう努めている。	4
4	入学検定料、入学金、授業料、その他の納付金の金額及び納付時期、並びに学費以外に入学後必要になる費用が明示されている。	5

コロナ前までは募集担当者が現地に出向き、学生、親と面談を実施していたが、入国規制により昨年度も実施はできなかったが、オンライン体制の整備により現地に行けない分、顔を見ての面談は1度だけではなく定期的に実施し、学生の意欲、日本語力等が確認できた。学生の生活状況も把握した状態で募集が行えている。募集には一部教員も参加しているため入学後に面識があり、学生に安心感を与える効果も実感する。ホームページの充実、SNSなど新たな情報発信方法に力を入れていきたい。

13. 財務

評価

1	財務状況は、中長期的に安定している。	4
2	適正な会計監査が実施されている。	4

事務局により行い、必要な情報は教務よりスムーズに提供ができています。

14. 法令遵守

評価

1	法令遵守に関する担当者を特定している。	5
2	入国管理局、関係官庁、日振協等への届出、報告を遅滞なく行っている。	5

担当者が明確になっており、連絡体系も整備されていることから報告は適切な時期に遅滞なく行っている。報告期限ぎりぎりではなく余裕を持って報告が行えたので、今年度も、余裕を持って行う。

15. 地域貢献・社会貢献

評価

1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	3
---	------------------------------------	---

昨年度はコロナによる制限もあり地域貢献活動はほぼできなかった。地域の方との連携はあるものの圧倒的に少なかった。学生と一緒に「月に一度の学校周辺清掃」は今年度こそは復活させたい。同時に施設を有効利用できる活動も考え、地域貢献は学校全体で常に意識的に取り組んでいきたい。